



平成 25 年 9 月 6 日 第 3 卷(第 10 号)

発行： 東京都新宿区住吉町 8-20 四谷チンゴビル 2F
災害支援チーム TEL (03)3351-5038
FAX (03)5366-1058
mail: dsstsw@jaswhs.or.jp

*** 目次

1. 協力員として参加して
2. 石巻での活動の様子
3. 災害支援チームからのお知らせ
4. 事務所感想文

*** pickup news

①災害支援チーム主催で講演会を開催いたします。

日時：10月19日(土) 10:00～16:00。みなさんのご参加をお待ちいたしております。

※詳細についてはホームページでご確認ください

②「東日本大震災医療ソーシャルワーカーの支援のバトン I」



「東日本大震災医療ソーシャルワーカーの支援のバトン II」

好評発行中です。活動継続の為の寄付になっています。皆さま、ぜひご購入のうえご
覧ください！！

※詳細は、“3. 災害支援チームからのお知らせ”をご参照ください。

*** 1. 協力員として参加して ***

畑中 良子(現地 職員)

感想:

石巻へ来て、4ヶ月が経ちました。

前回に大まかな業務内容の紹介はさせていただいたので、今、どのように自分が感じているかを伝えたいと思います。

各相談については受付や対応の方法、記録管理や記入の仕方など、みんなで話し合いながら形をつくっていています。

虐待では初動をどうするのか？でその後の経過が変わってきます。日々、相談を受けているのですが、情報を取るためのアンテナを張れているか、きちんと相談者の言いたいことを汲み取れているのか、自分の対応は間違っていないのか、と思い悩みながら取り組んでいます。特に今まであまり関わっていなかった新たな事象では、より緊張が高まります。時にはストレスになることもあります。しかし、相談に受ける事に慣れてしまう方が余計に危険だとも思っています。より良い支援を行うためには、時にはチーム内での意見交換も必要です。固定観念で決めつけるのではなく、一つずつ丁寧な関わりをしたいと思います。誰か一人の意見で決定するのではなく、チームでどのように関わっていくかを検討し、対応しています。

また、カウンセリング事業では相談者に対し、インテーク面談を行い、カウンセリングに繋いでいます。相談者へのインテーク面談では誘導にならずに、何について悩んで、何を相談したいのかを明確化させることが必要です。そのためには面談の手法をたくさん知っておくと効果的だなと感じます。それが事前の情報収集となり、繋げたカウンセリングでの時間の無駄を無くします。記録の書き方、情報の伝え方でイメージががらりと変わるので、主観が入らないように配慮が必要です。ひとつひとつのケースに対する振り返りが自身の見方を再認識させ、次へのアプローチへのヒントにもなります。対象者が前回までの課題を自身で解決していたり、気持ちが安定した姿を見るとホッとします。しかし、解決へ届かない場合もあり、自身の関わり方を悩んだりもします。出来る限り中断者を出さないように心がけようと思います。

今後も対象者により良い選択をしていただけるよう、自身も勉強する必要があると実感します。そして対象者との対話を重視し、事実を確認し、生活を見るケースワークを実践していきたいです。

活動期間:2013年 8月21日~8月23日

徳丸 茂史(大分県 大分赤十字病院)

感想:

日赤のこころのケア班で震災の1ヶ月後に石巻市で活動した。1週間という短い活動期間で十分な活動ができたか疑問だった。その後は被災地から遠く離れた九州で、被災地の記事に関心を持って、機会があればもう一度活動できないかと思っていた。今回その機会を得て活動することが出来た。活動内容は前回とは違い、MSW に特化した活動でとても入りやすかった。具体的には、仮設住宅をまわっての医療福祉の相談窓口があると啓発する活動。住民からの情報収集、継続ケースの支援等であった。仮設住宅では日陰に座り数人でおしゃべりしている方々へ声掛けをして話を伺った。「仮設住宅にも数戸空きが出ており私たちとしてはそこに駐在所のお巡りさんや支援に来ているあなた方のような方が入居してくれれば安心なだけで行

政は決してそれを認めない」「診療所はあるが17時までしか医者がおらず、夜間何かあった時が心配」「復興公営住宅の入居はいつになるかわからず、今の近所の人たちがぼろぼろになる恐れもあり不安」等々の話があった。ケースの継続支援に関しては、クライアントの不安を傾聴し今後も継続して関わっていくことの必要性を強く感じた。

震災から2年半を迎えようとしており、今回被災地に来るまではどれだけの仕事があるのか見えない部分が多くあった。しかし、実際に現地に来て活動し、今後もMSWが担うべき役割は多いと実感した。例えばある方は、被災して自宅を失って親戚の家に身を寄せ、その後仮設住宅ができると入居し、今度は復興公営住宅への転居が待っているというように、数年の間に激しい環境の変化があり、これはたとえどんなに健康な人でも適応するには厳しく時間がかかり、ドロップアウトする人もいるだろうと容易に想像できる。それをこどもや高齢者が行わなければならない現状を、私達MSWは受け止め、専門性を生かした支援をすることはとても意味のある事で、今後、仮設住宅から復興公営住宅に移る期間またその前後の期間の支援の必要性を感じた。

活動を検討している皆さんへ一言:

まだまだ被災地ではMSWの力を必要としています。是非一度現地で活動して下さい!

活動期間:2013年 8月21日~8月23日

荒金 智子(大分県 医療法人社団 仁泉会 畑病院)

感想:

今回2日半という短い期間ですが活動させていただき、報道等だけではわからない被災地の現状や被災者の方の思い、力強く生活されている様子を目の当たりにでき、活動させていただき本当に良かったと思っています。

今回の活動の中で仮設住宅を回ったのですが、僻地にある仮設住宅は生活する上で不便なことが多い環境にあるにもかかわらず、その場から離れて他の地域では生活をしたくないという住民の方の思いもあり、このような方たちに対する支援は継続して必要だと感じました。

震災によってそれぞれの取り巻く環境が変化していく中、9月より復興住宅への入居手続きが進んでいきますが、仮設住宅で暮らされている方々がまた別々の復興住宅へ入居されることによって生じる新たな問題に対しても対応していかなければならないなと感じました。今後また機会を設けることができれば、もっと時間をかけて支援活動に参加させていただきたいと思えます。

活動を検討している皆さんへ一言:

実際に被災地活動を行ってみると、大規模災害の恐ろしさや人の生きる強さを痛感させられます。私は被災地から帰って来て、今までの仕事に対するモチベーションが少し変わったような気がします。もし自分の住む町で大規模災害が起きたら...ということをもっと以前よりも頻繁に考えるきっかけとなり、今回本当に参加させていただいて良かったと思っています。

*** 2. 石巻での活動の様子 ***

*** 8/26 久保木 美由紀 (現地担当)

ケース対応:

生活保護受給されている方。難病医療費助成

訪問活動:

8/29 中高齢男性イベント誘い出し…4件 参加予定4名

*** 8/27 久保木 美由紀 (現地担当)

ケース対応:

生活困窮にて介入し生活保護申請。難病医療費助成の更新について相談有。手続きを進めるよう伝える。

RCIとの勉強会(参加者 18 名):

「言いにくいことをアサーティブ(自分らしく)に伝えることは容易ではなかったが、演習を通してコツがつかめた。」「声や表情を含めて自分の伝え方のパターンを知ることが重要であると感じた。」「地域コミュニティ形成へのチームアプローチを進める中でぜひ身に着けておきたいです。」等の感想有。

保健コーディネーター会議(15時~17時):

健康推進課、宮城県看護協会、キャンナス東北、開成仮診療所の活動報告に加え、復興住宅の説明会。からころステーション、社協地域福祉コーディネーター、みやぎ心のケアセンター、当協会も出席し活動報告、情報交換。仮設入居者に対する健康調査を9~10月に実施予定。みなし仮説入居者に対しても実施予定(11~12月)。健康推進課よりみなし仮説入居者に対する健康調査で、治療中断等の課題が上がった方に対するの支援依頼あり。9月の月例報告時に返答予定。支援開始時期は平成26年2~3月を予定。

*** 8/28 久保木 美由紀 (現地担当)

引きこもり家族相談:

家族グループ参加希望の方。母親より相談希望あり面談希望となっていたが、当日になり体調不良とのことでキャンセル。こちらから連絡を入れることは承諾して下さい。

引きこもり家族グループ参加者2名(親1名+子1名):

引きこもっている本人に変化が見られた。髪を切る等身の回りに気を遣うようになり、自動車学校へ行きたいと意欲が出てきた。参加者が増えてくると、共感やそれぞれの工夫を共有できて良い。そのために、場所や時間等の変更が必要か。場所については、生活再建課へ相談予定。

石巻 note さんご挨拶:

不登校、引きこもりの高校生(主に)を対象に、東北大学教育学部とも連携し学習、就労支援、相談等を行われている。本人へのアプローチだけでなく、環境への働きかけも重要とのことから、スクールソーシャルワーカーを各学校へ配置してもらえるよう要請している。

石巻の不登校、引きこもり支援の核となる団体の一つ。

*** 8/29 久保木 美由紀 (現地担当)

ケース対応:

- ①仮設の自治会長さんより依頼。医療機関(母、息子)、相談事業所(息子)とのつながり有。母より復興住宅への移行や健診手続きについての相談。復興住宅への移行支援の必要性あり。すでに関わられている支援機関あり、支援の役割確認の為連絡をとる。
- ②本人たちの思いを傾聴することで不安軽減。医療機関や、友人、家族関係良好。社会参加もされている。本人たちへの継続支援は必要ないと思われる。同仮設内在住の孫が引きこもってらっしゃると。現在お孫さんに対しての支援ニーズはないが活動内容をお伝えし、必要があればご連絡いただく事とする。

中高年男性向けイベント:

中高年男性向けイベント:4名参加(対象は高齢独居の方を中心)。4名中3名はもともと知り合いであった。会話も弾み、次回イベント企画(釣り)も生まれ、送迎も参加者のうちの一人が手を挙げて下さった。次回は野外、送迎も必要なことから事故対応等を考慮。

勉強会への参加:

「思春期・青年期のメンタルヘルス」勉強会

*** 8/30 久保木 美由紀 (現地担当)

ケース対応:

- ①電話にて高額療養費の説明をする。入院や手術に対する不安、兄弟や親せきに対する不満を話され、傾聴する。次回受診後に訪問し、手続きについて確認を行う予定。
- ②独居。訪問のアポのため連絡。家族に対する気持ちを話される。傾聴し、訪問の約束をする。
- ③終了したケースであったが、本人からの連絡により再開。就労について相談あり。来週訪問することとなる。

*** 9/2 久保木 美由紀 (現地担当)

ケース対応:

受診継続可能、総合生活支援センターともつながり、病状、生活ともに安定。社会参加についても総合生活支援センターが継続支援のため支援完了とする。

中高年イベント後のフォロー訪問:

参加者全員から「楽しかった。」との感想。参加者同士が震災前からの知り合いだったことも分かり、再会を喜ばれていた。次回の企画も参加者で話し合われていた。このイベントの効果や現在のニーズを把握するために、次回アンケートを行う。

*** 9/3 久保木 美由紀 (現地担当)

ケース対応:

- ①長年統合失調症を患っておられる息子について母親からの相談ケース。「息子の心の中がわからないので心配。私も疲れ切っている。」状況把握し支援を行ううえで、面談のアポをとる。→面談 9 月 5 日とする。
- ②労災についての情報提供のため訪問。8 月上旬より就労再開と伺っていたが、現在は就労されておらず、収入の見込みなし。医療保険加入も不明。次回訪問時、環境調査。

ピーチサロン打合せ(社協 CSC と):

「医療ソーシャルワーカーとは?」と「石巻での支援内容」を仮設住民向けに話をしてほしいと依頼。住民主体の活動をサポートすることを目的に、まずは様々な社会資源の情報提供をすることから始めることがねらい。ピーチサロン日程:9 月 26 日(木)10 時~12 時

*** 3. 災害支援チームからのお知らせ ***

【1. 協力員募集】

*** 現 地

- 1). 現在、1 日あたり上限 2~3 名で募集しております。中 3 日以上・なるべく平日の活動が理想的ですが、具体的な日程については、災害支援チームまでお気軽にご相談ください。

但し、初回参加の方は活動日数を 3 日以上でご参加お願い致します。

今後、活動に参加される方で初回参加の方には、簡単な資料を郵送致します。
ホームページに活動カレンダーを掲載しておりますのでご覧下さい。

*** 事務所

引き続き募集しております。

平日のみの活動ですが、1~2ヶ月に 1 回でも構いませんので、
ご協力をお願い致します。

【2. 災害支援チーム会議の開催について】

5. 次回会議予定

- 日程 9 月 29 日(日)13:00~15:00 於協会会議室

【3. 災害支援チーム主催の講演会】

日 程:2013 年 10 月 19 日(土) 10:00 ~ 16:00

会 場: TKP 信濃町ビジネスセンター ホール 2

★詳細はホームページに掲載いたします。⑦アクセス手順をご覧ください。

みなさまの参加をお待ち致しております。

【4.書籍販売】

『東日本大震災 医療ソーシャルワーカーの支援のバトンⅠ』と

『東日本大震災 医療 ソーシャルワーカーの支援のバトンⅡ』の

販売を行っています！

発災から2011年9月30日までの石巻・仙台・大槌町・事務所・災害対策本部の活動の記録を『バトンⅠ』に、2011年10月から2012年12月までの災害対策本部、石巻市での仮設住宅支援・在宅被災世帯支援・市民活動支援、現地SWとの協働の記録を『バトンⅡ』にまとめました。ぜひご覧になってください。

尚、売上金の全額を皆様からの寄付として、本活動の資金に充てさせていただきます。

※ご注文は注文用紙で承ります。

バトンⅠとバトンⅡとを同時にご購入される場合は合計冊数で送料を頂戴致します。送料表でご確認下さい。

(注文用紙はホームページからダウンロードできます)

バトンⅠ:URL: http://www.jaswhs.or.jp/data/publishing_detail.php?@DB_ID@=45

バトンⅡ:URL: http://www.jaswhs.or.jp/data/publishing_detail.php?@DB_ID@=47

【5.facebook】



facebook でも情報をお伝えしています。現地や災害対策本部の日々の様子をお伝えしています。応援よろしく願いいたします。

*** URL ***

<http://ja-jp.facebook.com/pages/公社日本医療社会福祉協会-災害対策本部/156327867812970>

【6.YouTube】

昨年の災害支援活動の様子を前事務所担当の一原さんがVTRにまとめて下さいました。現在はサポートセンターを活動拠点としております。当時の様子を知っていただく貴重な資料として、YouTubeにアップしておりますので、是非ご覧ください。「医療ソーシャルワーカー災害支援」で検索すると見つかります。

*** URL ***

<http://www.youtube.com/watch?v=vn34I9h5rJ4&feature=youtu.be>



【7. 講演会受講申込フォームへのアクセス手順】

- ①日本医療社会福祉協会のホームページを起動
- ②研修情報 タブルクリック
- ③研修案内情報 クリック → 研修案内情報を表示
- ④災害支援チーム主催 講演会 クリック → 開催案内フォーム表示
- ⑤開催案内フォーム上で
- ⑥受講申込フォーム クリック → 申込フォーム表示
- ⑦申込項目入力 確認押下
- ⑧関連ファイル:2013/08/19 クリック → PDF ファイル表示 ファイルダウンロード可能

*** 5. 事務所感想文 ***

*** 9/5 金子 小夜子 (災害支援チーム事務所)

この1週間、各地で大規模な自然災害が発生しています。
竜巻で被害を受けた方々、豪雨で被害を受けた方々にお見舞い申あげます。1日も早い復興を願います。石巻市の方々も復興に向かって進んでいて欲しいです。

<編集後記>

少し朝晩秋の気配を感じるようになって来ました。これから台風シーズン。防災への意識も今年は竜巻の一件もありより高そうに感じます。何かをきっかけに思い出すこれだけでも充分なことかなと思います。常にそればかり考えているよりもいろんな事が出来ると思うからです。幼い頃ボーイスカウト活動に参加していたときの事をふと思いだされました。「Be prepared (そなえよつねに)」リーダーがいつも口にしていたボーイスカウトのモットーです。季節の移ろい、未来の自分、楽しい笑顔。そういった生活の一部に災害に備えることも含まれるようになるといいなと思います。



《四国八十八箇所
第1番札所 霊山寺山門》

《石巻市内お寿司屋さん》



《石巻市蛤浜
(2世帯のみ残った小集落)》

《金華サイダー》



《徳島市の阿波踊り》

(編集担当 鴨島病院 医療ソーシャルワーカー一同)
東日本大震災 MSW 災害支援ニュース
平成 25 年 9 月 6 日 第 3 卷 10 号
作 成 徳島県医療ソーシャルワーカー協会